

令和6年度 久慈拓陽支援学校教職員 働き方改革アクションプラン

～ 明るく 強く 生き生きと ～

久慈拓陽支援学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

- ◆R5年度、時間外在校等時間が月80時間以上の教職員数0人
 - ◆R5年度、時間外在校等時間が月45時間以上の教職員数、年間延べ人数65人
(前年比+△33人)
 - ◆R5年度、時間外在校等時間が年360時間以上の教職員数25人
(前年比+1人)
 - ◆R5年度、19時を超える時間外在校教職員0人
- 管理職を含めた全教職員の意識
- ・月曜から木曜までの完全閉庁時間の19時が全職員に意識づけされている。
 - ・教職員個々に、タイムマネジメントしながら業務する意識が向上している。

2 目標・目指す姿

- <R6年度目標>
- 教職員全員で、「明るく 強く 生き生きと」働きます。
 - 時間外在校等時間が月80時間超の教職員を0人にします。
 - 時間外在校等時間が年360時間超の教職員を0人にします。
- <目指す姿>
- ・ 職員一人一人が教育にやりがいを感じ、児童生徒に向き合っている。
 - ・ 教職員が互いに情報を共有し、助け合い支え合って業務推進している。
 - ・ 教職員が仕事とプライベート(家庭のための時間、自分自身の自由な時間)を大切にタイムマネジメントしている。
 - ・ 管理職が日頃から教職員に声をかけ、コミュニケーションをとっている。

3 (2を達成していくための) 具体的取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・週4日(月～木)の完全退庁時間を18時45分とします。
(-15プロジェクト)
- ・週1回(金)の完全退庁時間を18時とします。
- ・管理職が、特割の適正な実施と有給休暇等の積極的な取得について促します。
- ・前年度の時間外在校等時間のデータを個々に開示します。
- ・職員の状況に応じ、健康相談事業等の活用を促します。

○ 学校における業務改善の推進

- ・担当業務について、仕事の手順メモや資料の綴り方を工夫して、だれが見ても分かる資料を作成します。(業務の整理と引継ぎの効率化)
- ・職員会議と学部会はTeamsを活用しペーパーレス化を図ります。
- ・校務部会は部長が不要と判断した月は実施なしとします。
- ・学校行事は終了後の反省と同時に次年度の骨子案を作成して確実に引き継ぎます。
- ・教材教具フォルダを作成し、学習プリントや教材の作り方など、共有化を図ります。
- ・管理職が学校評価と年度末反省までの過程で業務改善の絞り込みを進め、次年度改善案を明確にします。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・学校行事や校外学習、各種スポーツ大会、技能認定会等の教育活動において、登録サポーターの活用を積極的に進めます。
- ・高等部生徒の自立と社会参加に向けて、企業との連携協議会や嘱託非常勤講師など、地域企業の指導を仰ぎ、キャリア教育を充実させます。

令和6年5月7日 久慈拓陽支援学校長 石川えりか

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」(抜粋)

【定量的目標】 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (目標1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者を**ゼロ**にする。
- (目標2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおりに**縮減**する。

| 時間外 在校等時間 | 取組期間 |
|--------------|-----------------|
| | 令和6(2024)年度 |
| 月45時間超 | 前年度(R5年度)実績より減少 |
| 年360時間超 | |

【定性的目標】 業務への充実感や健康面での安心感の向上、教職員のウェルビーイングの確保

令和8年度において、以下の項目にかかる肯定的実感が、令和6年度から向上することを旨とする。

- ・授業や授業準備に集中できている
- ・健康でいきいきと業務を行っている
- ・業務にやりがいを感じている
- ・自分自身の自由な時間を確保できている
- ・自分の家庭のための時間を十分に確保できている